

2016年11月20日

福音書からのメッセージ

ろばの子をほだしていると、その持ち主たちが、「なぜ、子ろばをほどくのか」と言った。二人は、「主がお入り用なのです」と言った。

(ルカによる福音書 19 章 33~34 節)

桃山基督教会では5月の親子礼拝と11月の子ども祝福式のときには、人形やペープサートなどを使ってお話をしています。今回はマックス・ルケードの「たいせつなきみ」をもとに、お話をしました。

この物語に出てくるのは、木でできた小人たちです。彼らはいつも二種類のシールを持ち歩いていました。一つの箱には誰かを褒めたいときに貼る金ぴかシールが、そしてもう一つの箱には誰かをけなしたいときに貼るねずみ色シールが入っていました。

小人の一人、パンチネロはいつも、ねずみ色のシールを貼られていました。そして何をやっても駄目な自分が嫌になり、外に出ることも少なくなっています。

そんなある日、パンチネロは体に一つもシールが貼られていないルシアに出会います。彼女の体にシールを貼ろうとしても、シールがくっつかないのです。「なぜルシアにはシールはつかないんだろう」、そう首をかしげるパンチネロに対し、ルシアは自分たちをつくったエリに会いに行くことを勧めます。そのあとパンチネロがどうなったかは、ぜひ絵本を買って読んでください。

わたしたちは普段の生活の中で、周りの人たちに金ぴかシールやねずみ色シールを貼っていませんか。また周りの人から何色のシールを貼られているのだろうと、気になってしまうことも多いと思います。

でもこの物語はわたしたちに、大切なのは周りの目ではなく、神さまがわたしたち



を愛してくださっていることだと伝えてくれます。計算がそんなに得意でなくても、足があんまり速くなくても、自分の思ったことをはっきり言うことが出来なくっても、神さまにとってそんなことはどうでもよいのです。神さまはそれでも、わたしたち一人一人を大切に思ってください。心から愛してください。

今日の聖書の中で、エルサレムに入るイエス様を乗せたのは何だったのでしょうか。リムジン？馬？違います。子ろばです。それも誰も乗せたことのない子ろばです。荷物だって十分に運んだこともないでしょう。小さな小さな存在です。誰も目を掛けることなどないその子ろばに、イエス様は目を向けました。イエス様はその子ろばを用いてくださったのです。

イエス様は伝えてくださいます。あなたたちは小さな小さな一人ひとりかもしれない。でも神さまはあなたたちのことをちゃんと見てくださっている。用いてくださる。

どうぞこれからも神さまのよい子どもとして、健やかに歩んでください。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>